

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和元年12月以降、認定基本計画に基づき、「多様な文化が集い、まちへの愛着を育む賑わい拠点」をまちづくりのコンセプトとし、中心市街地内に魅力ある商業機能や居心地の良い空間を創出するための各事業を実施している。

令和5年は目標指標のうち「計画掲載事業を活用した新規出店数」、「平日昼間の歩行者通行量」とともに概ね前年度比横ばいで推移し、計画期間内最高の水準を維持した。この背景には、中心市街地内で前年度から476人の人口が増加したことに加え、新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、各種行動制限が本格的に緩和されたことで通勤・通学の鉄道駅利用者が戻ったこと、まちづくり会社FICベース株式会社による複合施設「omo café+c」の整備だけでなく、特徴ある個店の出店による商業環境の魅力向上等が要因として考えられる。

また、令和5年度は、本計画の主要事業の一つでもある「茨木市文化・子育て複合施設おにクル（以下「おにクル」という。）」が11月26日に開館し、開館日に想定を大きく上回る15,000人の来館、開館から1ヶ月で累計来館者数が19万人を超える等、高い集客効果を誇っている。

中心市街地への新規出店数が高水準で推移した要因としては、茨木市創業促進事業補助金及び茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の活用が順調に進んだことに加え、上記の「おにクル」開館への期待をはじめ、商業立地環境としての高いポテンシャルが挙げられる。

歩行者通行量は全体では横ばいで推移しているが、通勤・通学による乗降客数の増加の影響を受けたJR茨木駅周辺以外では微減していることから、目標数値を達成した水準ではあるものの、豊かな人流を回遊性につなげるという観点では未だ課題がある。なお、市民会館跡地地点は「おにクル」開館前の数値であったことから、計画の最終年度には大幅な増加と目標達成が見込まれるが、施設整備による集客効果をまち全体の回遊性の向上につなげる取組が今後も重要である。

目標指標のうち参考指標として掲げた「公共空間活用件数」は、「おにクル」及び広場の整備のために利用に制限のあった旧中央公園南グラウンドで新たな広場の活用が進んだほか、まちづくり会社によるJR茨木駅東口のいばらきスカイパレットの活用にも弾みがつき、99件/年と基準年を上回る結果となった。「おにクル」の来館者数は好調に増加しており、施設利用者の中心層である子育て世代をはじめ、多様な主体による公共空間の活用が進んでいることから、目標達成は見込まれる。

今後は、「おにクル」及び広場の好調な集客効果をまち全体の回遊性の向上や賑わいの創出へとつなげていくために、まちづくり会社による道路空間活用事業や多様なチャレンジの場の提供、市民・事業者との共創による取組を推進していき、各指標の目標達成を図る。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度 12 月 31 日)

(中心市街地 区域)	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度(4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)	令和 6 年度 (最終年度)
人口	14,222	14,192	14,375	14,576	15,026	15,502	
人口増減数	140	△30	183	201	450	476	
自然増減数	-	-	-	-	-	-	
社会増減数	-	-	-	-	-	-	
転入者数	-	-	-	-	-	-	

※中心市街地区域 16 町丁目 (春日一丁目、西駅前町、駅前一～四丁目、西中条町、岩倉町、片桐町、元町、大手町、本町、宮元町、別院町、永代町、双葉町)の住民基本台帳人口の合計

※システム上、自然増減数、社会増減数、転入者数については集計困難のため記載していない

【地価】

(単位：円/㎡)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)	令和 6 年度 (最終年度)
JR 茨木駅付近 (東側) (駅前 1-8-19)	331,000	351,000	356,000	361,000	370,000	388,000	
JR 茨木駅付近 (西側) (西駅前町 5-4)	523,000	561,000	570,000	585,000	613,000	665,000	
市役所付近 (駅前 3-7-1)	360,000	377,000	382,000	384,000	391,000	406,000	
阪急茨木市駅 付近 (永代町 8-30)	350,000	364,000	370,000	373,000	387,000	405,000	

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による各種行動制限が本格的に解除となり、目標指標のうち新規出店数と歩行者通行量が高水準のまま推移、公共空間の活用件数も大幅に増加と、今後の中心市街地活性化に向けて明るい兆しがみられる年となった。

特に、公共空間の活用件数については、これまで基準年以下の数値で推移してきたが、基準年を超える活用件数へと大幅に増加した。これは「おにクル」整備に伴い利用に制

限のあった旧中央公園南グラウンドが利用できるようになったためだけでなく、IBALAB@広場やまちづくり会社によるイベントをはじめ、数年にわたる官民連携の創意に溢れる多様な試みが、数値にも成果として現れたものとする。

歩行者通行量については、前年度同様の高い水準で推移しており、中心市街地の高いポテンシャルを確認できる結果となったが、中心市街地の中心に位置する市民会館跡地地点や、商店街周辺地点で前年度比微減となっており、回遊性という点では今後もさらに様々な取組を進めていく必要性が見られた。

官学民が連携して立ち上げたまちづくり会社では、商店街内の古民家を活用した複合施設「omo café+c」の運営、いばらきスカイパレットでの道路の占用の特例を活用したコンテナ型カフェ「milk|stand|cafe elle」の誘致と、市民等が滞在できる上質な施設の運営を通じ、魅力ある商空間形成やにぎわい創出に寄与している。また、市北部地域の野菜等を販売するマルシェやクリエイター等の活動の場づくりなど、多様な主体の巻き込み・連携の推進を通じ、中心市街地内での出店や活動につながるような人材とのネットワークを築いており、今後更に中心商業機能の質の更新に向けた環境づくりを進めていくことが望まれる。

令和6年度は、本計画の最終年度であり、中心市街地の中心に位置する「おにクル」の開館効果が本格的に発現する年でもある。これまで市民や事業者が培ってきた、多様な活動や事業運営等のノウハウを活かし、施設整備の効果をまちなかの回遊や新しい時代の賑わいにつなげていくことが重要である。

厳しい社会環境下においても新しいニーズを捉え、官民ともに着実に事業に取り組んできたことは、中心市街地の魅力向上につながる大きな力となった。引き続き、目標指標の達成に向けて、多様な主体の連携により計画推進に着実に取り組むことを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
中心商業機能の質の更新	計画掲載事業を活用した新規出店数	8.4 店/年 (H26~H30 平均)	13.3 店/年 (R1~R6 平均)	15 店/年 (R5)	A	①	①
滞在・活動の場の創出	平日昼間の歩行者通行量(平日: 9~17時)	27,438 人/日 (H29)	30,712 人/日 (R6)	35,005 人/日 (R5)	A	①	①
	【参考指標】公共空間活用件数	87 件/年 (H30)	125 件/年 (R6)	99 件/年 (R5)	B	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「計画掲載事業を活用した新規出店数」については、茨木市創業促進事業補助金及び茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金により出店者を支援し、前年度の令和4年と同数値の15店／年となった。令和4年の15,026人から15,502人へと増加した中心市街地内人口や目標数値を超えた水準で推移する歩行者通行量といった人流のポテンシャル、茨木商工会議所等と連携した情報発信やサポート等の効果が新規出店へとつながったものと推察される。今後も、継続的な創業・事業発展支援や、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」及び同社の事務所移転に伴い新たに整備された「交流スペース」をきっかけとしたクリエイターや起業家の呼び込みの推進等により、目標達成が見込まれる。

「平日昼間の歩行者通行量」については、中心市街地における人口増加を背景に、令和4年の35,018人／日から35,005人／日とほぼ横ばいかつ、目標数値を上回る水準となった。地点別では、新型コロナウイルス感染症による行動制限の解除が本格化したことによりJR茨木駅周辺では通勤・通学者等が増加したが、それ以外の商店街周辺や市民会館跡地といったまちなかのポイントでは微減傾向となった。全体としては自宅周辺で買い物や飲食、憩いや滞在等の行動を求める生活スタイルが定着し、中心市街地内の歩行者通行量が高い水準で推移しているものと考えられるが、発生・増加する人流をまち全体の回遊性につなげる観点からは、今後も取組が必要であると考えられる。ただ、市民会館跡地地点については、「おにクル」開館前の計測値であり、同施設の来館者数は好調に増加していることから、令和6年度においては大幅な増加が見込まれるとともに、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」や、茨木阪急本通商店街内に移転した同社事務所1階に併設の「交流スペース」などの滞在・活動拠点の活用促進等により、目標達成が見込まれる。

参考指標である「公共空間活用件数」については、前年度の46件／年、基準値である87件／年をも大幅に上回る99件／年となった。令和4年度は旧中央公園南グラウンドが「おにクル」等の整備のため一部工事中であったことや、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの自粛等の影響があり伸び悩んだが、令和5年度は本格的な行動制限解除に伴い市民や事業者、まちづくり会社の活動が活発になったほか、これまでIBALAB@広場の活用をはじめ、大小様々なイベントや活動を創意工夫のもと行いながら、公共空間活用の機運を高めてきた結果が実った形となった。「おにクル」が開館し、今後は施設運営と連動してさらに多くの市民等による活用が期待できることから、目標達成が見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「計画掲載事業を活用した新規出店数」

前回から変更はない。

「平日昼間の歩行者通行量」

前回から変更はない。

参考指標「公共空間活用件数」

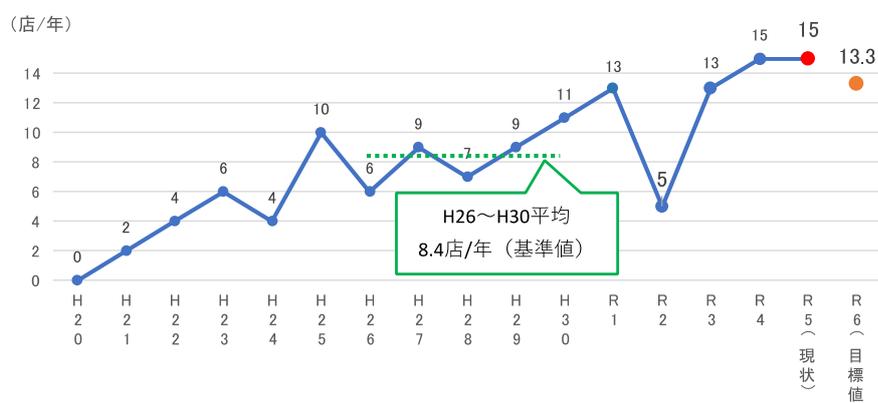
令和5年度は、前年度の46件/年、基準値である87件/年をも大幅に上回る99件/年となり、「おにクル」開館の効果により予想を大きく上回る来館者数を記録し続けていること、同施設に隣接する広場での市民や事業者等による活動が今後本格的に発展すると予想されることから、前回の目標達成が見込まれないとの見通しから転じ、十分な目標達成が見込まれると評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「計画掲載事業を活用した新規出店数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.81 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H26~H30 平均	8.4 (基準年値)
R1	13
R2	5
R3	13
R4	15
R5	15
R6	13.3 (目標値) *ただしR1~R6平均

※調査方法：各年度の「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の活用件数と、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」により整備した店舗数を集計。

※調査月：令和6年3月

※調査主体：茨木市

※調査対象：「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の対象店舗、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」により整備した店舗

〈分析内容〉

「計画掲載事業を活用した新規出店数」の増加に向けた各事業については、茨木市創業促進事業補助金での開業が13店舗と計画期間中過去最高値、茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の活用が2店舗と市による支援事業を予定通り実施、計画掲載事業を活用した新規出店数は15店舗/年と、前年度と同水準、かつ目標数値を上回る結果となった。

まちづくり会社による商店街にぎわい空間整備事業及びクリエイターズマーケット整備事業として、古民家を改装したカフェとハンドメイドの複合施設「omo café+c」が令和

4年5月に開業、令和6年1月には同社の新事務所1階に「交流スペース」が整備され、令和5年11月の「おにクル」開館と合わせ、直近の2年間でエリア全体の集客や滞在の魅力向上に貢献する拠点が複数できた。その結果、新規出店・創業環境としての魅力を維持・向上していることが本指標にも現れているものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①商店街にぎわい空間整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	商店街内に子供連れでゆったりと過ごすことのできる居心地の良い飲食店の入る商業施設を整備することで、滞在したくなる空間の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1店舗 【最新値】1店舗（令和4年に実施） 事業主体となるまちづくり会社により、古民家物件の改修を実施し、令和4年5月にカフェとハンドメイドクリエイターの販売スペース等からなる複合施設「omo café+c」を整備し、市民ニーズに対応した飲食店1店舗を誘致した。
事業の今後について	居心地の良い飲食店の運営を通じて、魅力ある商空間の形成やエリアのにぎわい創出を牽引するとともに、クリエイターズマーケット整備事業との相乗効果により、来訪・滞在の目的となる場づくりに取り組む。

②クリエイターズマーケット整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	市内では多数のハンドメイドクリエイターが活躍しており、既存空き店舗の内部を1坪区画に改装することで、クリエイターが低賃料で創業できる環境を整える。多数のクリエイターが集結することで、魅力ある商業空間を創出する。コワーキングスペースを併設することでクリエイターと起業家の共同活動や新たな事業の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】9店舗 【最新値】3店舗（累計 令和5年度の新規誘致は0店舗） 既存空き店舗を改装して1坪単位に区画し、ハンドメイドクリエイター等が低賃料で創業できるスペースを9区画整備することで、計画期間（5年4か月）で9店舗の新規出店を見込んでいる。令和5年度は、まちづくり会社が空き店舗を改装して整備した複

	合施設「omo café+c」において、前年度整備した1坪区画の販売スペースとワークショップスペースの計3区画への出店促進に努めた。また、クリエイターの発掘やつながりづくりを目的に、元茨木川緑地やIBALAB@広場を会場としたマルシェ「茨木蚤の市」、同社新事務所1階に併設された「交流スペース」で茨木神社の十日戎に合わせた「えべっさんDEマルシェ」等のイベントを開催し、多くのクリエイター等との交流が生まれた。
事業の今後について	複合施設「omo café+c」へのクリエイター等の出店や、令和6年度から本格的に運営を開始する「交流スペース」の利用促進を図るとともに、市や茨木商工会議所との連携により支援制度等の情報提供も併せて行っていくことで、計画期間中の目標達成を目指す。

③まちづくり会社による店舗誘致事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が市民ニーズに合致した業種・業態の店舗を誘致することで、魅力的な商業空間の形成を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2店舗/年（計画期間中累計10店舗） 【最新値】0店舗/年（計画期間中累計0店舗） 不動産事業者と連携して不動産所有者と創業・出店意欲のある人を繋ぎ、遊休不動産の積極的活用を促進し、5年4か月で10店舗の新規出店を見込んでいる。 令和5年度は複合施設「omo café+c」や新たに整備された「交流スペース」の利用促進及び道路空間活用事業の推進と並行して本事業を進めてきたが、今年度期間中の店舗誘致には至らなかった。
事業の今後について	基本計画に定めた事業実施期間での円滑な着手に向け、事業主体となるまちづくり会社で「omo café+c」及び「交流スペース」の利用促進と並行して、市や商工会議所との連携強化や仲介業者・不動産所有者との関係構築、SNS やメディアを活用した情報発信等により、出店希望者の発掘に取り組む。

④-1 茨木市創業促進事業補助金の拡充（茨木市）

事業実施期間	平成15年度～【実施中】
事業概要	飲食店や小売店舗の新規創業に対して、開業に要する経費を補助することで創業を促進し、商業機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	【目標値】10店舗/年※ただし④-1と④-2合計

新値及び進捗状況	<p>【最新値】13店舗／年※④-1のみ</p> <p>13店舗の新規出店となり、基準年値である5.2店舗（平成26～平成30年平均）を上回った。ウィズ・コロナに適した業態の創出や、住宅地周辺での買い物や飲食、憩いや滞在といった消費者ニーズの変化に対応し、新規出店・創業意欲を持つ事業者が増えたものと考えられる。今後も茨木市創業促進事業補助金と茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金を合わせて年間8.4店舗以上の水準を維持し、目標年次には上記2事業合わせて目標数値の年間10店舗の新規出店の達成を見込んでいる。</p>
事業の今後について	<p>中心市街地内で本事業を活用した開業が行われるよう、新規開業希望者への情報提供や新規開業に向けた研修など、商工会議所等が実施する事業や、まちづくり会社による店舗等物件情報の収集活動とも連携を図り、本事業を活用した開業促進に取り組む。</p>

④-2 茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の拡充（茨木市）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	既存小売店舗の改装や2店舗目の出店、業態変更に係る費用を補助することで、商業機能の質の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】10店舗※ただし④-1と④-2合計</p> <p>【最新値】2店舗※④-2のみ</p> <p>2店舗の新規出店となり、基準年値である3.2店舗（平成26～平成30年平均）を下回った。ただし、茨木市創業促進事業補助金と茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金を合わせて年間8.4件以上の水準は維持しており、目標年次には上記2事業合わせて目標数値の年間10店舗の新規出店の達成を見込んでいる。</p>
事業の今後について	<p>中心市街地内で本事業の活用による改装が行われるよう、市内物販・飲食店への情報提供や、商工会議所等が実施する事業及びまちづくり会社による店舗等物件情報の収集活動とも連携を図り、本事業を活用した開業促進に取り組む。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年の「計画掲載事業を活用した新規出店数」は基準値を上回り、前年度と同じく計画期間中過去最高の数値という結果となった。

この背景として、令和元年までは新規出店数が継続して増加していたことや、中心市街地内の人口が増加していることから、商業立地ポテンシャル自体は維持されていたことが考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の拡大下においても中心市街地全体や、特に商店街周辺の歩行者通行量は増加しており、自宅周辺での買い物や飲食、憩いや滞在といったウィズ・コロナ時代の消費者ニーズがある程度定着したものと推察される。

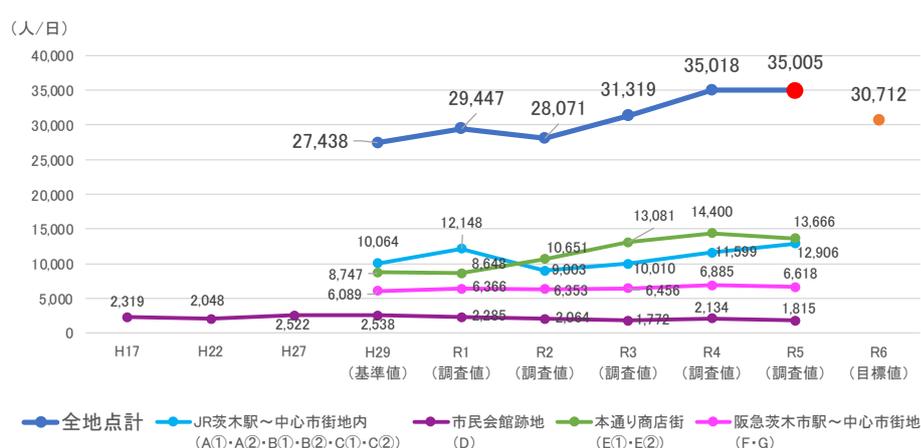
さらに、まちづくり会社による古民家を改装したカフェとハンドメイドの複合施設「omo café+c」が前年度に開業、令和6年1月には同社の新事務所1階に「交流スペース」が整備されるなど、「おにクル」の開館と合わせて、直近の2年間でエリア全体の集客や滞在の魅力向上に貢献する拠点が複数でき、出店環境としての期待が高まっていることも推測される。茨木商工会議所の創業支援や情報発信等も継続してきた結果、中心市街地内での開業に挑戦する事業者が増加、高水準で推移したものと考えられる。

今後も、茨木商工会議所やまちづくり会社と連携した情報収集・発信に努めるとともに、市民が訪れ、利用したくなる商業空間の形成に向けて各事業を推進することにより、目標達成が可能と見込まれる。

最終年度は、茨木商工会議所の創業支援等の取組との連携を引き続き図りつつ、まちづくり会社の複合施設「omo café+c」や「交流スペース」、「おにクル」との相乗効果を図りやすい業種・業態等の検討や情報収集、集客状況や取組等に関する情報提供活動の展開、まちづくり会社の各種事業との連携強化により、目標達成を目指していく。

「平日昼間の歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 82～P. 85 参照

●調査結果と分析



年	人/日
H29	27,438 (基準年値)
R1	29,447
R2	28,071
R3	31,319
R4	35,018
R5	35,005
R6	30,712 (目標値)

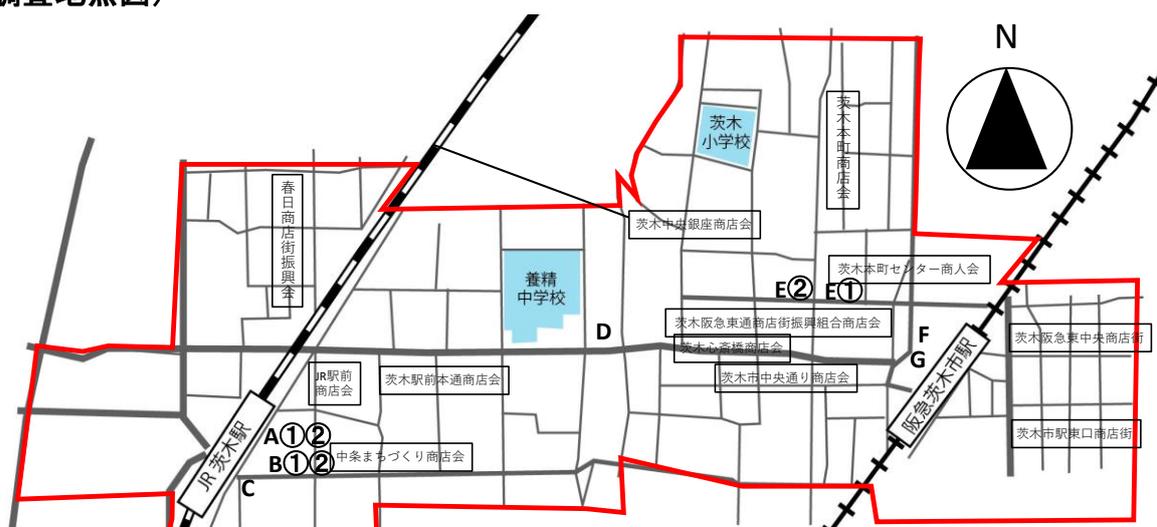
※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年11月の平日に中心市街地内10地点において午前7時から午後7時までの12時間計測。

※調査月：令和5年11月

※調査主体：茨木市

※調査対象：中心市街地内10地点（A①JR茨木駅商店街側エスカレーター、A②JR茨木駅商店街側居酒屋前、B①JR茨木駅阪急オアシス前エスカレーター、B②JR茨木駅阪急オアシス前、C JR茨木駅立命館方面エスカレーター、D市民会館跡地、E①本通り商店街（阪急茨木市駅方面）、E②本通り商店街（城跡方面）、F 阪急茨木市駅商店街側、G 阪急茨木市駅市役所側）

(調査地点図)



(各調査地点の歩行者通行量)

調査地点		R1 (調査値)	R2 (調査値)	R3 (調査値)	R4 (調査値)	R5 (調査値)
A①	JR茨木駅商店街側エスカレーター	1,833	1,904	1,870	2,198	2,150
A②	JR茨木駅商店街側居酒屋前	247	228	188	195	174
B①	JR茨木駅阪急オアシス前エスカレーター	2,758	2,375	2,362	2,446	2,794
B②	JR茨木駅阪急オアシス前	1,490	1,000	849	1,043	1,258
C	JR茨木駅立命館方面エスカレーター	5,820	3,496	4,741	5,717	6,530
D	市民会館跡地	2,285	2,064	1,772	2,134	1,815
E①	本通り商店街(阪急茨木市駅方面)	8,129	8,609	9,179	8,624	7,985
E②	本通り商店街(城跡方面)	519	2,042	3,902	5,776	5,681
F	阪急茨木市駅商店街側	3,867	3,557	3,616	3,877	3,644
G	阪急茨木市駅市役所側	2,499	2,796	2,840	3,008	2,974
全地点計		29,447	28,071	31,319	35,018	35,005

《分析内容》

「平日昼間の歩行者通行量」は、令和6年度の目標値である30,712人/日を上回り、35,005人/日と、令和4年度と比較して概ね横ばいの結果となった。

各調査地点の増減を見ると、JR茨木駅の立命館大学方面への人流3地点以外は微減傾向にあるが、数値としては前年度の高い水準を維持している状況であり、エリア内での人口増加の影響が全体として継続していることが推察される。

JR茨木駅周辺での増加については、新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、各種行動制限が本格的に緩和されたことで大学を中心に通勤・通学の鉄道駅利用者が戻り、通行量も増加したものと考えられる。

特に減少率が高かった調査地点は、中心市街地の中央に位置する市民会館跡地地点で前年度比約-15%となった。この要因として、「おにクル」開館直前に本調査が行われたため、施設整備に伴

い各種施設が閉鎖され、利用できなかったことによる影響があったものと推察される。

しかし、調査実施後の令和5年11月26日に開館した「おにクル」では、開館日に想定を大きく上回る15,000人が来館、開館から1ヶ月で累計来館者数が19万人を超える等高い集客効果を誇っており、今後は施設整備による波及効果をエリア内の回遊性の向上に繋げていくことを目指す。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①道路空間活用事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和4年度～令和6年度【実施中】
事業概要	道路の占用の特例を活用し、JR茨木駅東口及び阪急茨木市駅西口駅前広場にオープンカフェを設置し、まちづくり会社が定期的にイベントを実施する等により賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】1,747人/日（エリア全体の計測ポイントでの増加分）</p> <p><参考>本事業による増加分は60人/日</p> <p>【最新値】7,567人/日の基準年からの増</p> <p><参考>JR茨木駅～中心市街地への計測ポイントでの増加分は2,842人/日</p> <p>当該事業により一日当たり60人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。令和5年3月より、まちづくり会社がJR茨木駅東口のいばらきスカイパレットにおいてコンテナ型カフェ「milk stand cafe elle」を設置し、子育て中の方がこだわりのドリンクや軽食を扱うスタンドカフェを運営している。また、毎月定期的で開催されるイベント「えきまえマルシェ」との相乗効果により、駅前空間の賑わい創出や歩行者通行量の増加につながっている。</p>
事業の今後について	事業主体のまちづくり会社が主催する「えきまえマルシェ」を継続して開催するとともに、更なる活用に向けて道路管理者や交通管理者との協議を進め、多様な主体が滞在・活用できる環境づくりを目指す。

②文化複合施設整備事業（地域交流センター整備・子育て支援機能整備・図書館整備）（茨木市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	中央公園南グラウンド南側緑地にホールなどの機能を備えた文化複合施設の整備を行う。文化複合施設には大屋根のあるオープンスペースを整備し、集いの場の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）

<p>事業目標値・最新値及び進捗状況</p>	<p>【目標値】1,747人/日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） <参考>本事業による増加分は1,305人/日</p> <p>【最新値】7,567人/日の基準年からの増 <参考>市民会館跡地では723人/日の基準年からの減</p> <p>文化複合施設整備事業と中央公園（南）整備事業により、大屋根のある中間領域を備えた文化複合施設と芝生広場を旧中央公園南グラウンドに一体的に整備し、一日当たり1,305人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。当該事業実施地に最も近い計測ポイントである市民会館跡地では、基準年より723人/日の歩行者通行量の減となっているが、この要因は令和5年の調査日が同施設の開館前かつ工事中であったためと考えられる。歩行者通行量自体は中心市街地全体で目標を達成した水準で推移しており、令和5年11月に開館した「おにクル」は予想を大幅に上回る来館者数となっていることから、目標年次での目標達成が見込まれる。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>「おにクル」の集客による波及効果をエリア全体の回遊性へと繋げることを目指す。</p>

③ 中央公園（南）整備事業（茨木市）

<p>事業実施期間</p>	<p>令和2年度～令和5年度【済】</p>
<p>事業概要</p>	<p>文化複合施設の整備と併せて、中央公園の南グラウンドを芝生化し、「育てる広場」のキーコンセプトのもと、ゆったりと過ごすことのできる憩いのスペースを整備する。</p>
<p>国の支援措置名及び支援期間</p>	<p>都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）</p>
<p>事業目標値・最新値及び進捗状況</p>	<p>【目標値】1,747人/日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） <参考>本事業による増加分は294人/日</p> <p>【最新値】7,567人/日の基準年からの増 <参考>市民会館跡地では723人/日の基準年からの減</p> <p>中央公園でのイベント実施及び元茨木川緑地再整備事業並びに文化複合施設整備事業により、一日当たり294人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。当該事業実施地に最も近い計測ポイントである市民会館跡地では、基準年より723人/日の歩行者通行量の減となっているが、歩行者通行量自体は中心市街地全体で目標を達成した水準で推移していること、令和5年11月に開館した「おにクル」では予想を大幅に上回る来館者数となっていることから、隣接する中央公園南グラウンドでの集客も円滑に進んでお</p>

	り、目標年次での目標達成が見込まれる。
事業の今後について	「おにクル」及び整備された広場の集客波及効果をエリア全体の回遊性へと繋げることを目指す。

④商店街にぎわい空間整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	商店街内に子供連れでゆったりと過ごすことのできる居心地の良い飲食店の入る商業施設を整備することで、滞在したくなる空間の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】1,747人/日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） <参考>本事業による増加分は80人/日 ※ただし事業④⑤の和</p> <p>【最新値】7,567人/日の基準年からの増 <参考>商店街周辺では4,919人/日の基準年からの増</p> <p>カフェとクリエイタースペースから構成される複合施設「omo café+c」を令和4年5月に整備し、一日当たり80人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。複合施設「omo café+c」に最も近い計測ポイントの商店街周辺では、歩行者通行量が基準年より4,919人/日の増加となっており、上記複合施設整備をはじめ、周辺の特徴ある個店の出店による効果も発現している。</p>
事業の今後について	引き続き市民ニーズに合った、来訪目的となるような居心地の良い魅力的な飲食店を運営し、賑わい創出を図る。

⑤クリエイターズマーケット整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】
事業概要	市内では多数のハンドメイドクリエイターが活躍しており、既存空き店舗の内部を1坪区画に改装することで、クリエイターが低賃料で創業できる環境を整える。多数のクリエイターが集結することで、魅力ある商業空間を創出する。コワーキングスペースを併設することでクリエイターと起業家の共同活動や新たな事業の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】1,747人/日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） <参考>本事業による増加分は80人/日</p>

	<p>※ただし事業④⑤の和</p> <p>【最新値】7,567人/日の基準年からの増</p> <p><参考>商店街周辺では4,919人/日の基準年からの増</p> <p>カフェとクリエイターによる販売・ワークショップスペースから構成される複合施設「omo café+c」を令和4年5月に整備し、一日当たり80人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。複合施設「omo café+c」に最も近い計測ポイントの商店街周辺では、歩行者通行量が基準年より4,919人/日の増加となっており、上記複合施設開業や周辺の民間レンタルスペース等による効果も発現している。</p>
事業の今後について	<p>まちづくり会社により、複合施設「omo café+c」及び令和6年6月から本格的に運営を開始する「交流スペース」の活用促進により、クリエイターのワークショップやマルシェ等、来訪目的となるようなコンテンツを提供し、賑わいの創出を図る。</p>

⑥立命館大学留学生商店街連携事業（立命館大学）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	商店街と留学生が連携・交流しながら留学生向けの商店街マップを作成し、留学生の商店街への来街を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】1,747人/日（エリア全体の計測ポイントでの増加分）</p> <p><参考>本事業による増加分は8人/日</p> <p>【最新値】7,567人/日の基準年からの増</p> <p>立命館大学留学生商店街連携事業により、一日当たり8人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。</p>
事業の今後について	引き続き事業を継続し、歩行者通行量の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地における人口増加を背景に、エリア全体の歩行者通行量は前年度に増加、目標数値を達成した水準を維持している。特に、JR茨木駅周辺の一部の調査地点では前年度より増加が見られたが、新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、各種行動制限が本格的に緩和されたことで大学を中心に通勤・通学の鉄道駅利用者が戻ったことの現れと考えられる。

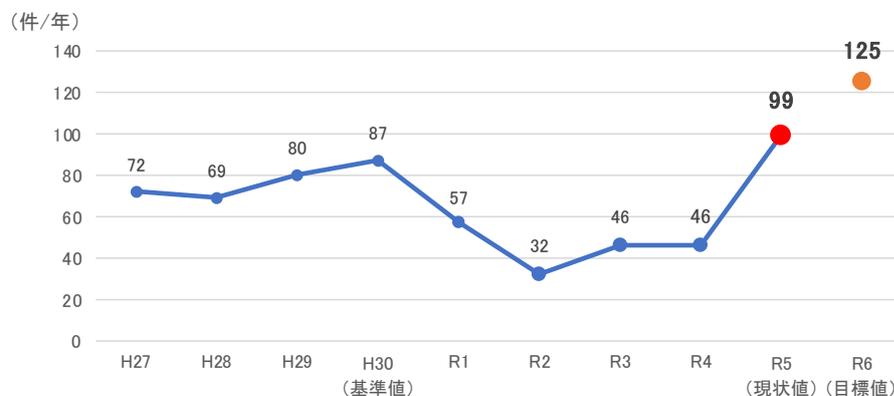
また、「おにクル」が令和5年11月末に開館し、予想を大幅に上回る来館者数を継続している等、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。

今後は、「おにクル」と広場の整備波及効果が十分に発現されるよう、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」や「交流スペース」での交流イベント等の展開や、周辺エリアでの店舗誘

致、いばらきスカイパレット等でのマルシェの定期開催をはじめとする道路空間活用事業の実施、大学と連携した情報発信等に引き続き取り組み、中心市街地内への回遊を誘導する。

参考指標「公共空間活用件数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 87 参照

●調査結果と分析



年	件/年
H30	87 (基準年値)
R 1	57
R 2	32
R 3	46
R 4	46
R 5	99
R 6	125 (目標値)

※調査方法：各年度の中心市街地内の主な公共空間（いばらきスカイパレット、阪急茨木市駅西口駅前広場、中央公園グラウンド、岩倉公園）で市へと利活用の届出のあった年間件数の和を算出。

※調査月：令和6年3月

※調査主体：茨木市

※調査対象：中心市街地内の主な公共空間（いばらきスカイパレット、阪急茨木市駅西口駅前広場、中央公園グラウンド、岩倉公園）でのイベント等件数

《分析内容》

「公共空間活用件数」については、前年度の46件/年から大幅に増加し、99件/年（いばらきスカイパレット11件、中央公園グラウンド79件、岩倉公園9件）と基準値である87件/年（いばらきスカイパレット5件、中央公園グラウンド72件、岩倉公園10件）を上回った。

前年度まで「おにクル」及び広場の整備により利用が制限されていた旧中央公園南グラウンドが「おにクル」の大屋根広場・芝生広場として令和5年11月末から利用できるようになり、前年度の38件/年から79件/年へと大幅にイベント等の開催件数が増加したこと、また、JR茨木駅東口のいばらきスカイパレットにおいても、まちづくり会社のマルシェ開催等により、令和4年度の3件/年から11件/年と大幅に増加したことが主な要因となっている。

「おにクル」の整備期間中においても暫定的にIBALAB@広場を設け、市民等による公共空間活用の機運醸成に努めてきたほか、いばらきスカイパレットにまちづくり会社が誘致したコンテナ型カフェが令和5年3月から運営開始する等、新型コロナウイルス感染症の拡大等、厳しい社会情勢下でも活性化に向けて創意工夫をしながら取組を続けてきた結果が上記数値に現れており、目標達成は可能であると考えられる。

今後は、開館した「おにクル」及び広場の運営者やまちづくり会社と市民・事業者等との連携を引き続き促進し、多様な主体による更なる公共空間の活用を推進する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 文化複合施設整備事業（地域交流センター整備・子育て支援機能整備・図書館整備）（茨木市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	中央公園南グラウンド南側緑地にホールなどの機能を備えた文化複合施設の整備を行う。文化複合施設には大屋根のあるオープンスペースを整備し、集いの場の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】84件／年（中央公園の基準値である72件に活用見込12件を加算） 【最新値】79件／年 文化複合施設整備事業と中央公園（南）整備事業により、大屋根のある中間領域を備えた文化複合施設と芝生広場が旧中央公園南グラウンドに一体的に整備され、両事業合わせて年間12件の公共空間（中央公園）の活用増を見込んでいる。令和5年度においては、中央公園において年間79件と基準年より増となり、文化複合施設の開館前の数値を含んでも好調に増加したことから、今後目標達成するものと考えられる。
事業の今後について	「おにクル」運営者との連携や、IBALAB@広場の活用に関わってきた市民や事業者等とのネットワークを今後も育てていき、公共空間活用に対する機運の醸成に努めつつ、公共空間が積極的に活用されることを目指す。

② 中央公園（南）整備事業（茨木市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	文化複合施設の整備と併せて、中央公園の南グラウンドを芝生化し、「育てる広場」のキーコンセプトのもと、ゆったりと過ごすことのできる憩いのスペースを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】84件／年（中央公園の基準値である72件に活用見込12件を加算） 【最新値】79件／年 文化複合施設整備事業と中央公園（南）整備事業により、大屋根のある中間領域を備えた文化複合施設と芝生広場が現在の中央公園南グラウンドに一体的に整備され、両事業合わせて年間12件の公共空間（中央公園）の活用増を見込んでいる。令和5年度にお

	いては、中央公園全体で年間 79 件と基準年より増となり、「おにクル」開館前の数値を含んでも好調に増加したことから、今後目標達成するものと考えられる。
事業の今後について	「おにクル」運営者との連携や、IBALAB@広場の活用に関わってきた市民や事業者等とのネットワークを今後も育てていき、公共空間活用に対する機運の醸成に努めつつ、多くの市民等に活用されることを目指す。

③道路空間活用事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和4年度～令和6年度【実施中】
事業概要	道路の占有の特例を活用し、JR 茨木駅東口及び阪急茨木市駅西口駅前広場にオープンカフェを設置し、まちづくり会社が定期的にイベントを実施する等により賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】29 件／年（いばらきスカイパレット・阪急茨木市駅西口駅前広場の基準値である 5 件に活用見込 24 件の加算） 【最新値】11 件／年 JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレット・阪急茨木市駅西口駅前広場それぞれ年間 12 件、合わせて年間 24 件の公共空間活用件数を見込んでいる。令和5年3月より、まちづくり会社が JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレットにおいてコンテナ型カフェ「milk stand cafe elle」を誘致するとともに、5月から定期的にイベント「えきまえマルシェ」を開催したことにより、前年度よりも活用件数を大幅に伸ばした。阪急茨木市駅西口駅前広場においては、公共空間活用に向けて道路管理者や警察等との協議等の準備段階にあり、実際の活用には至っていない。
事業の今後について	まちづくり会社によるいばらきスカイパレットでの「えきまえマルシェ」等の定期的なイベント開催を推進していくとともに、多様な主体が活用できる仕組みづくりを道路管理者や交通管理者とも連携・協議しながら検討していく。

④「次なる茨木・クラウド。」プロジェクト（茨木市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の公共空間の活用に向けて、まちづくりの専門家による勉強会やワークショップ等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2 件／年（本事業における活用件数） 【最新値】0 件／年（本事業における活用件数）

<p>況</p>	<p>勉強会やワークショップ等への参加をきっかけとした市民・事業者等による公園や両駅前広場等の公共空間の活用により、年間2件の活用増を見込んでいる。令和5年度は、計画の実績値には含まれないが、暫定的に設けられていた IBALAB@広場の活動が市民や事業者により展開され、イベントでの利用実績が年間195件に上るなど、公共空間活用に向けた機運が着実に醸成されている。また、元茨木川緑地ではまちづくり会社の「茨木蚤の市」や活用に向けた社会実験「もといばテラス」が実施されたほか、中央通りの沿道空間活用に向けた社会実験「みちリノ」、JR茨木駅西口の駅前に広場空間を設置する社会実験「いばソト」など、民間事業者、大学等と連携しまちなかの回遊行動の誘導や公共空間を活用する様々な実践の機会が設けられ、今後の中心市街地活性化における多様な主体の巻き込みに貢献するものとなった。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>開館した「おにクル」及び広場での各種イベントやワークショップ等をはじめ、まちづくりの担い手の出会いの場の提供や人材育成等の取組を進めるとともに、引き続き官学民の連携により公共空間を活用する実践の機会を設け、目標の達成を図っていく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

「公共空間活用件数」の増加に向けた主要事業は概ね順調に進捗し、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によるイベントの自粛等の影響や施設整備による利用制限を受けていた前年度の46件/年から大幅に増加するとともに、平成30年の基準値である87件/年を超える99件/年となった。「おにクル」開館後の来館者数は予想を大幅に上回る数値で推移していることから、中央公園をはじめ公共空間の活用は今後さらに活発になることが見込まれ、目標達成は可能と考えられる。

令和5年度の大幅な件数増は、新型コロナウイルス感染症の拡大という厳しい社会情勢下においても、IBALAB@広場で粘り強く展開された、市民や学生、民間事業者等による大小様々なイベント等の試みの積み重ねや、各種行動制限の中で工夫をしながら公共空間活用事業に挑戦してきたまちづくり会社等の取組成果と考える。

今後は、「おにクル」及び広場の好調な集客効果を中心市街地全体の活性化に繋げていくために、回遊性の向上等も推進しながら、引き続きまちづくり会社による道路空間活用事業の実施や、公共空間を活用する実践の機会を積極的に設け、市民・事業者との共創により目標達成を図る。